

令和4年度第1回いなべ市グリーンインフラ推進協議会 会議録

|          |   |
|----------|---|
| 会議名      | 令和4年度第1回いなべ市グリーンインフラ推進協議会   |
| 開催日時     | 令和5年1月23日(月) 11:00~11:45  |
| 開催場所     | いなべ市役所シビックコア棟   |
| 出席者      | <p><b>【委員長】</b>1名<br/>西田貴明</p> <p><b>【委員】</b>15名<br/>(オンライン)<br/>林幸喜<br/>(現地)<br/>伊藤綾根、辻清成、椎原未来、片山多賀子、里中知之、諸岡章弘、橋本雅史、大月浩靖、平塚聖奈(代理出席)、水谷智仁、小林正樹、奥岡孝将(代理出席)、谷口利大、坪井諒介(代理出席)</p> <p><b>【事務局】</b>4名<br/>農林商工部長、商工観光課長、商工観光課職員2名</p> <p><b>【オブザーバー】</b>6者<br/>(オンライン) 国土交通省総合政策局環境政策課、パシフィックコンサルタンツ株式会社<br/>(現地) 国土交通省総合政策局環境政策課、桑名三重信用金庫、百五総合研究所、京都産業大学(別室)</p> |
| 会議次第     | <p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>4 その他</p>   |
| 配布資料     | <p>事項書</p> <p>資料 1_出席者一覧.</p> <p>資料 2_令和 4 年度のグリーンインフラに関する取り組み</p> <p>資料 3_いなべ版 SIB イメージ(仮)</p> <p>資料 4_「観光交流、産業振興施設、子育て関連施設の複合施設」の導入可能性調査.</p> <p>参考資料 1_自然資源活用に関するまちづくり実証実験</p> <p>参考資料 2_市職員等によるロジックモデル WS とロジックモデルの整理</p> <p>参考資料 3_ファイナンスモデルの検討</p> <p>参考資料 4_にぎわいの森の追加効果検証</p>  |
| 公開、非公開の別 | 公開  |
| 非公開の理由   | —   |
| 傍聴人の数    | 0人  |

## 議事概要

### 1 開会

#### (事務局挨拶)

人事異動等に伴い、4名の委員交替があったため資料1で確認をお願いしたい。

### 2 委員長挨拶

#### (西田委員長挨拶)

グリーンインフラは自然の機能を活用した公園整備のようなインフラだけでなく、キャンプのような自然を楽しむ活動にも関わってくるものである。いなべ市では昨年度から国土交通省の支援が入っており全国的にも関心を持たれている。

国全体でここ1年グリーンインフラは大きく盛り上がっている。グリーンインフラ産業展が2月に東京で実施され、全国の自治体や企業がグリーンインフラの取り組みを共有する。産業展でいなべ市の発表する地域の取り組みが、大きな関心を向けられると思う。

今年度京都産業大学の学生がにぎわいの森のアンケート調査などを行っているが、自然をうまく活用していることに私自身も感銘を受けている。今後も整理して発展していくとよい。

### 3 議事

#### (1) 令和4年度の取り組みについて(資料2、参考資料1～4)

##### (事務局より説明)

<資料2 令和4年度のグリーンインフラに関する取り組み>により説明。

昨年度、委員の皆様にご協賛いただいた「いなべ市グリーンインフラ推進基本方針」が、グリーンインフラ推進本部会で承認され、この方針に基づき本年度の4つの取り組みを行った。

#### 【「①自然資源活用に関するまちづくり実証実験」について】

令和3年度の「にぎわいの森」効果検証の結果を踏まえ、市民による「構想会議」で、みどりのオープンスペース構想として、子育て、防災減災、環境保全、にぎわい創出などに関する課題と、自然資源の活用による課題解決方法について、話し合った。(詳細は<参考資料 1\_自然資源活用に関するまちづくり実証実験>)

会議の結果、「小学校低学年以下のこどもとその保護者が長時間滞在できること」「その他の世代(10～20代の若年層やシニア)もくつろげること」、この2つを両立できる、市民向けのスペースが、いなべ市のグリーンインフラの推進に必要なようになってくるのではないかと仮説を立てた。

この仮説を検証するため、11月12日に会議参加者と共に、「いなべグリーンラボ」というイベントを屋根のない学校で実施した。

親子向けには、火起こし体験や、木工プレーパーク、その他の世代向けにはテントサウナや「森の中の図書館」などのプログラムを用意し、両者を結ぶ中間地点には飲食ブースを設けた。

プログラム計画時には、【「②市職員等によるロジックモデルワークショップ」】のアイデアも活用した。(詳細は<参考資料 2\_市職員等によるロジックモデル WS とロジックモデルの整理>)

イベントには約500人が訪れ、アンケートでは滞在時間2時間以上が45%で、市民の利用は68%、子育て世代と想定される30~40代の利用者は61%となった。一方で、数は少ないものの若年層やシニアもベンチ等でゆっくりくつろいでいる様子も見られた。

この実証実験の内容を展開することで、にぎわいの森に欠けている「長時間滞在」「市民向け」「親子向け」といった機能が補え、グリーンインフラの推進に一定の貢献をすると実証された。

#### 【「③ファイナンスモデルの検討」について】

グリーンインフラの推進につながるファイナンスを検討した。

昨年度に引き続き国交省からの支援を得て、地域の金融機関である百五銀行、桑名三重信用金庫、百五総合研究所と意見交換を行い、グリーンインフラの事業において活用ができるファイナンス手法の検討を行った。

いなべ市においては「ソーシャルインパクトボンド」「クラウドファンディング」「ビジネスプランコンテスト」の活用が地域プレイヤーの活動を応援する分野で可能ではないかとの方向性が出ている。

一方で、各手法の課題、取り組み推進のためのロードマップ制定や認証制度も必要ではないかとの意見があった。(詳細は<参考資料 3\_ファイナンスモデルの検討>)

#### 【「④にぎわいの森の追加の効果検証」】

昨年度の効果検証に加え、京都産業大学に協力いただき、学生の卒業研究におけるアンケート調査のデータをクロス分析している。

みどりの機能と購買意欲などに関する観光や経済的な側面の分析を行っており、年度末までに結果が出る予定。(詳細は<参考資料 4\_にぎわいの森の追加効果検証>)

#### (質疑応答)

##### 委員長

実証実験イベント「いなべグリーンラボ」に参加された方は市民と市外在住者の割合はどの程度か？またコンテンツを提供している主体はどのように集めたか？

##### 事務局

参考資料1の6ページに、参加者の居住地域はいなべ市内68%、三重県内31%となっている。三重県内のどこの自治体かは不明だが、約3割は市外在住者であった。

コンテンツ提供主体は、同じく参考資料6にある構想会議の参加者で、地域で活動する環境保全の団体、子育て団体、消防団で活動している方などとなる。いなべのまちづくり推進について話し合いを重ね、研修や先進地視察を行ったのちイベントを実施した。

## 委員長

グリーンインフラを推進する上でファイナンス検討はかなり珍しい例である。ソーシャルインパクトボンド、ビジネスプランコンテスト、クラウドファンディングに注目された背景、議論の背景などは？

## 事務局

参考資料3に、今年度国交省の支援の下検討した経緯が書いてある。何度か百五銀行様、桑名三重信用金庫様、百五総合研究所様と意見交換をした。

グリーンインフラでどういった事業が可能かまとめてあるのが5ページ。この中で課題となったのが、グリーンインフラの達成や推進を測る基準をどう作るかが重要ということ。更に、地域の中でグリーンインフラの認証制度が必要ではないかといった意見も出た。

いなべ市では、規模的なことも考え、ソーシャルインパクトボンド、ビジネスプランコンテスト、クラウドファンディングといった形であれば、これらの課題をクリアしながら、やっていきやすいのではないかと考えている。来年度に向け3つのどれかで実証実験ができないか検証している段階である。

## 委員長

実証事業はいろいろな市民が関わってくるもので、いなべ市の取り組みを応援できるしくみとして非常に重要であるため、検討を深めていくとよい。

## (2) 今後の取り組みについて 資料3、4

### (事務局より説明)

実証実験イベントや職員ワークショップの結果から、ハードの面では市だけでなく市民プレイヤーも主催や運営側として使いやすい機能があるスペース・施設が必要であること、ソフトの面では持続的に事業を継続するための人材不足や資金不足などの問題があり、次年度以降検討事項となっている。

そこで、本年度整理したファイナンスモデルも活用しながら、来年度、2事業を予定している。いずれも、国に補助金を申請している段階であり、状況によっては実施を先送りとする可能性もあるが、いったん本協議会で情報共有をする。

<資料3 資料3\_いなべ版 SIB イメージ(仮)>により説明。

まず、主にソフト的な課題、構想会議ほか市民や市民団体、創業者等が、自然を活用した活動や事業を展開するための、資金調達のテスト事業を行いたいと考えている。

地方創生推進交付金を財源とし、地域金融機関、まちづくり法人グリーンクリエイティブいなべ、いなべ市民活動センターなどと連携しながら、テスト事業の方法を構築する。

資金の調達元としては、市民や市内企業を支援者・出資者として考えており、支援先の団体等による中間報告会等や、一定の評価基準に基づく出資者への配当などを通して、一方的な支援に留まら

ず、金融を通じた良好な関係づくりにつなげたいと考えている。

<資料 4\_「観光交流、産業振興施設、子育て関連施設の複合施設」の導入可能性調査>により説明。

二つ目に、「観光交流・産業振興施設、子育て関連施設の複合施設 の導入可能性調査」として、グリーンインフラのフィールド整備に関し、こういった形で民間事業者との連携が可能であるかの調査事業を予定している。

内閣府の民間資金等活用事業調査補助金を財源としており、本資料は補助申請書から抜粋した内容となる。昨年度から本協議会でも議題となっていた「旧大安中央児童センター」を、にぎわいの森セカンドステージとして整備するための基礎情報の整理や、公費負担や市のリスク軽減が見込める民間収益事業の検討などを行う予定である。

#### **(質疑応答)**

##### **委員長**

資料3について、支援者と支援先はそれぞれどのような方を想定されているか。支援者は市外でもよいのか、活動団体や事業者の範囲どこまでか、など教えてほしい。

##### **事務局**

支援者は市民中心で考えている。しかし、現在市外に住んでいてもかついなべ市にいた方や、いなべ市在勤者でもよい。さらに、個人に限らず、いなべ市内の事業者から支援をいただくことも想定している。

また、活動団体・創業者の範囲としては、「活動したいことがあるが主に金銭面に課題がある」といった団体や事業者を想定している。これから事業を始めようとする創業者や、金銭面に課題がある団体等は、補助金等の申請のスキルがなく困っている場合が多い。そういった団体等がみどりを活用する分野について活動や事業を行うとき、まちづくり法人グリーンクリエイティブいなべにも間に入ってもらうことで申請の事務的な課題も解決できるのではないかと考えている。

##### **委員**

資料4の事業予定地について、線路の東西のそれぞれの規模を教えてほしい。

##### **事務局**

三岐鉄道三岐線の西側の事業予定地が 5,000 m<sup>2</sup>程度、東側が 4,300 m<sup>2</sup>程度です。

##### **委員長**

これまでの調査は、みどりの機能が人の行動にどう影響しているかという部分が形になってくるのかと思う。調査のなかで今後の施設整備に活かせるような部分はあるのか。

##### **事務局**

みどりがあるということで、多くの方が「景観が良い」と印象を持ってくださっているアンケート調査結果がある。景観のよさが滞在時間の長さにつながっている可能性はあるが、単にみどりがあるだけでは意味がない。参考資料1のまちづくり実証実験イベントでは、2時間以上の滞在者が46パーセントとなっている。当日、親子をターゲットにした様々な自然資源活用のコンテンツを用意した結果だと考えている。

広い会場ではないが、500人の来場があったという点からも、自然の中で遊び学べるスペースが非常に求められているということが予測でき、来年度以降の事業で活かしていきたいと考えている。

#### **委員長**

ぜひコンテンツがどんどん生まれる仕掛けも含めて検討していくとよい。

#### **オブザーバー(国土交通省 末原)**

全国的に見てもこのように積極的にグリーンインフラの事業を進めているのは先進的である。全国の事例を見ると都市部ではみどりを増やすことがグリーンインフラという考えで動いているが、いなべ市では「みどりを増やすのがグリーンインフラではないのでは」という意見もある。

みどりを増やす観点ではなく、うまく活用するという点で事業展開をするなか、みどりがどのようにお金を生み出すか検討する部分などで今年度はいなべ市を支援した。

ロジックモデル作成支援もしたが、検討時、参加者間では土砂災害の防止や気候変動の抑制、にぎわいの創出などさまざまな効果が考えられた。国土交通省も総合政策局で部署連携してすすめており、いなべ市でもそれぞれの部署で連携することで、ロジックモデルのとおり行政目標の達成に結び付いていくと思う。イベントに収まることなく、継続してほしい。

#### **委員長**

民間の方含めいろいろな方関わっていくことがグリーンインフラの事業では重要である。

## **4 その他**

### **(事務局より連絡事項)**

令和5年度は秋ごろに開催し、本日協議した事業計画について経過報告をする予定である。